

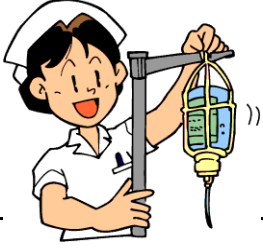
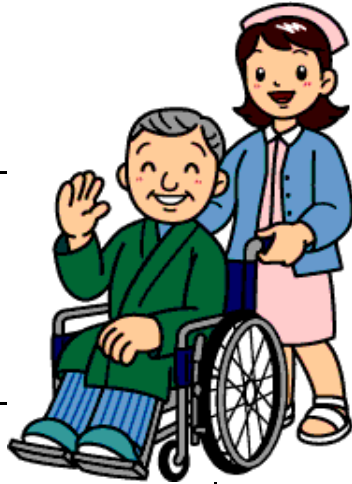
No46 大腿骨頸部・転子部骨折の手術を受ける患者様へ①

ID @PATIENTID
氏名 @PATIENTNAME

月 日	/		/		/		/	
経 過	入院日		入院1日目～手術2日前まで		手術前日		手術当日(術前)	
目 標	手術の不安が最小限である							
処 置	<ul style="list-style-type: none"> 入院の日は多くの処置が入ります。 骨折した足が良い位置になる様に牽引という治療をすることがあります。手術まで安静にする為の処置です。 痛みや動ける範囲によって排泄のため尿道に管を入れる事があります。 血栓予防の為、両足に弾性ストッキングを着用します。毎日1回 弾性ストッキングの着脱を行います。 		<p>〈準備頂きたい物〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ①和式の寝衣 2～3枚 ②肌着 ③バスタオル 2～3枚 ・ タオル 2～3枚 ④大人用の紙おむつ ・ 大人用のお尻拭き ⑤ペットボトルに付けられるストロー または 吸い飲み ⑥ボディシャンプー ・ シャンプー ・ リンス ⑦食事の際使用する 箸 ・ スプーン ・ フォーク ⑧洗面用具 (歯ブラシ ・ 歯磨き粉 ・ コップ) ⑨弾性ストッキング <p>〈手術後に準備頂きたい物〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ①スリッパ と リハビリ用のシューズ ②パジャマ または 運動の出来る服装 		<ul style="list-style-type: none"> 就寝前、麻酔科医師の指示により飲み薬の出ることがあります。 眠れそうにない時には夜9時までに看護師にお知らせ下さい。 		<ul style="list-style-type: none"> 手術前に浣腸を行いません。 牽引や安静の内容により、前日の午後にも実施することもあります。 朝から点滴を行いません。 血圧など必要な薬を飲む場合は医師より指示があります。 麻酔科医師の指示により飲み薬が出ることがあります。 手術する方の足に印を付けます。 	
治 療	<ul style="list-style-type: none"> 痛みが強い時は、坐薬や飲み薬を使います。看護師までお知らせ下さい。 以前より使用している薬を薬剤師または看護師にお知らせ下さい。(目薬や貼り薬・塗り薬も教えて下さい。) 抗凝固薬や抗血小板薬を飲んでいた場合は、手術の為 中止します。 							
検 査			<ul style="list-style-type: none"> 必要に合わせて 他の診療科の診察を入れます。 今まで掛かっていた診療科や予約がある時は、看護師にお知らせ下さい。 毎日 14:00前後で熱や脈拍などの測定を行いません。 					
測 定								
入 院 生 活	食 事	<ul style="list-style-type: none"> 食事は病室に配膳します。()食です。 治療食の必要な方は適宜変更します。 			<ul style="list-style-type: none"> 夜9時以降 食事・水分はとれません。 		<ul style="list-style-type: none"> 朝から食事・水分はとれません。 	
	清 潔	<ul style="list-style-type: none"> 排便はベッド上で便器を使用するか、オムツを使用します。使用方法については看護師より説明します。 	<ul style="list-style-type: none"> 背中や全身の状態を見るためにベッド上で体を拭きます。 		<ul style="list-style-type: none"> ベッド上で寝たままで 髪を洗います。 ベッド上で寝たままで、体を拭きます。看護師がお手伝いします。 マニキュアも落しています。 			
	活 動	<ul style="list-style-type: none"> 入院後はベッド上の安静になります。ベッド上での活動は説明のあった範囲でお願いします。 臥床する事で床ずれがでやすくなります。定期的に体の位置を直します。 自分自身でも動ける範囲で体の位置を変えましょう。 	<p>リハビリについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆手術前日までベッド上で、できる運動を理学療法士の指導のもとに実施します。 ☆普段からの運動が大切です。腰上げ運動や 良い方の足の曲げ伸ばしをしましょう。障害の無い部分の筋肉まで衰えてしまうのを防ぎましょう。 ☆ベッド上で動かないことで『深部静脈血栓症』や『肺塞栓』という合併症を引き起こす恐れがあります。 					
リハビリ								
説 明	<p>入院日 または 翌日に、医師(主治医)より治療方針についての説明があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当医より手術の説明があります。 麻酔科医より麻酔の説明があります。 看護師より入院時オリエンテーションやクリティカルパスの説明があります。 手術同意書を看護師に渡してください。 必要時、薬剤師が病室に伺います。 		<ul style="list-style-type: none"> リハビリについて理学療法士より説明があります。 		<p>ご家族の方へ、手術についての説明があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明の日・時間は判り次第お伝えします。 			



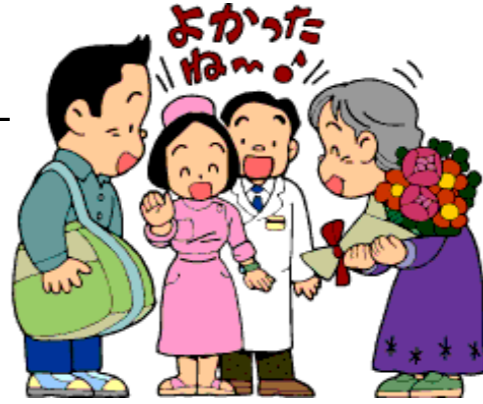
No46 大腿骨頸部・転子部骨折の手術を受ける患者様へ②

ID @PATIENTID
氏名 @PATIENTNAME

月 日	／	／	／	／	／	／ ～ ／	／	
経 過	手術日(手術後)		手術1日目	手術2日目	手術3日目	手術4日目	手術5～6日目	手術7日目
目 標	手術後の経過に問題がない(バイタルサインが安定し、合併症が起こらない)			車椅子への移動が出来るようになる。				
治 療	<p>手術後は、病室に戻ってきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酸素マスク : 午前手術の場合当日夕方まで 午後手術の場合翌朝まで付けておきます。 ・点 滴 : 翌日夕方まで続けて行ないます。 ・痛み止めは、点滴から持続適に入るものを使用します。痛みが強い時に、痛み止めを追加投与できるボタンが付いています。使い方は看護師が説明します。 ・それでも痛みが強い時は、坐薬や注射などの痛み止めを使用します。看護師に声を掛けて下さい。 ・尿道の管が入ってきます。 ・傷口近くから排液用のチューブバックが入ってきます。これは、傷の中に血液が溜まらない様にするためです。 ・血栓予防のため両足に器械(フットポンプ)を装着します。 ※自分自身で足首をよく動かすことが、血栓予防に重要です。 		<ul style="list-style-type: none"> ・手術後の消毒は基本的に必要最小限となります。これは空気中の細菌感染から傷を守るためです。 ・朝と夕方に抗生剤の点滴を行ないます。 ・痛みが続く時には、痛み止めの飲み薬を使用します。 ・夜間眠れない時には、入眠導入剤をお出しします。 ・朝から手術前に飲んでいただ飲み薬を再開します。 		<ul style="list-style-type: none"> ・医師の指示のもとに、抗凝固薬や抗血小板薬を飲んでいただ方の薬の再開します。 ・早ければ尿道の管を抜きます。 ・傷口に入っているチューブを抜く予定です。 		<ul style="list-style-type: none"> ・傷口の消毒を行ないます。 	
検 査 測 定	<ul style="list-style-type: none"> ・帰室直後より何度か(夜中も)体温・脈・血圧などの測定を行ないます。 		<ul style="list-style-type: none"> ・朝食前に採血を行ないます。貧血の程度を見る検査です。 				<ul style="list-style-type: none"> ・朝食前に採血を行ないます。 ・レントゲン撮影があります。 	
食 事	<ul style="list-style-type: none"> ・水分は医師の指示があった後からになります。 		<ul style="list-style-type: none"> ・朝から食事が始まります。 					
入 院 生 活	清 潔			<ul style="list-style-type: none"> ・体を拭いたり、寝巻きを着替えたり、日常の身の回りのお手伝いをします。トイレなどに行く時はナースコールで看護師に連絡して下さい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・夜間は足元が危ないのでしばらくはベッドサイドに簡易トイレをおきます。 ・傷口を防水テープで保護してシャワーに入れます。 		
活 動 リハビリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッド上で寝たまま安静となります。体の向きを変えるときなどは看護師がお手伝いします。 		<ul style="list-style-type: none"> ・朝食の時からベッドの頭側を90度まで上げる事が出来ます。 ・リハビリが始まります。ベッドサイドに理学療法士が伺います。本日より車椅子乗車予定。足をついても構いません。はじめは看護師や理学療法士と一緒に車椅子に移動する練習をします。まだ自由に動きづらいので、一人で動くのは止めましょう。 ・リハビリ以外でもベッド上で出来るリハビリを始めましょう。腰上げ運動を始めましょう。午前 午後 各10回ずつ目標を決めて行ないましょう。 ・両足の足首を曲げ伸ばしする運動を始めましょう。気付いた時にできるだけ多く行いましょう。 ・食事の時、足をベッドサイドに下ろしベッドに腰掛けるようにしましょう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・本日より、リハビリはりハビリテーションセンターで行ないます。 ・センターでは起立歩行の訓練を行ないます。 		<p>本日より、病棟でも歩行器を使用して歩いてみましょう</p> <p>転倒に注意しながら、ゆっくり歩行練習をしましょう。</p>	
説 明	<p>ご家族の方へ 手術後医師より手術について説明をいたします。</p>				<p>今後の方針について、ご家族で話し合われましたか 今後、自宅に帰る際の自宅の整備について、看護師にご相談下さい。 自宅への退院が困難と思われる場合も、看護師にご相談下さい。</p>			

No46 大腿骨頸部・転子部骨折の手術を受ける患者様へ③

ID @PATIENTID
氏名 @PATIENTNAME

月日	／ ～ ／	／ ～ ／	／	／ ～ ／	／ ～ ／	／ ～ ／
経過	手術8～9日目	手術10～13日目	手術14日目	手術15～16日目	手術17日～20日目	手術21日目
目標	病棟の中で歩行器または杖を使用し、起立歩行が出来るようになる。			杖歩行での活動が安全に行える。 退院 または 転院へ		
処置 治療				・術後14日以降、傷口のガーゼを外します。	・退院に向けて、最終的な日程の調整を行いません。 ご家族の方の予定などを教えて下さい。	・退院の際の、必要とする薬などの希望のある時は、看護師にお話下さい。
検査 測定			・朝食前に採血を行いません。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <p>大腿骨頸部・転子部骨折は、日常生活に大きく影響を与えます。</p> <p>退院の目標は、『元通りに動けるようになる事』ではなく『元通りに少しでも近づく事が出来る』です。</p> <p>年齢とともに、以前と同じ生活は 難しくなるでしょう。 しかし、寝たきりにならないように、今後ともマイペースで、元の生活に近づくように頑張ってください。</p> <p>食事は、バランスよく。 カルシウムの摂取を 心がけ、可能ならば 日光浴をするなどして、寝たきりにならない努力をしましょう。</p> <p>どうしても、以前より転びやすくなります。 杖や、手押し車などを使い、安全に動く工夫をしましょう。</p> <p>自宅の中 特に お風呂場 ・ トイレ ・ 階段などは安全に動けるようになっていきますか？ 必要に合わせて、自宅の環境を整えましょう。</p> </div>		
入院生活	食事					
	清潔			・今日から傷口を濡らしてシャワーに入ることができます。 最初は看護師がお手伝いします。 お家の方が、出来る時はご説明します。 シャワー室の使用時間は、病棟看護師にお尋ね下さい。		
	活動 リハビリ	杖を使って、 歩いてみましょう				
説明		ご家族の方へ 時間が許すときは、リハビリでの様子を是非ご覧下さい。 リハビリの時間については、看護師にご確認下さい。				医師より退院前の説明をします。 ☆次回外来受診：あり・なし ☆次回外来受診日： 月 日 時 分～ ☆診察前のレントゲン：あり・なし ・退院前までに 薬剤師より必要な薬についての 説明をします。 ・退院前までに 理学療法士より退院後のリハビリについての 説明をします。 退院に際して、気になる事があったら、医師・看護師・理学療法士・薬剤師などにお尋ね下さい。 担当者から、説明させて頂きます。 退院後の生活の注意事項については、必要時 説明させて頂きます。